

## マツ類葉さび病およびこぶ病に対する各種薬剤の防除効果について

楠 幹生<sup>a)</sup>・山岡 裕一<sup>b)</sup>・岡根 泉<sup>b)</sup>・三浦 靖<sup>a)</sup>・藤田 究<sup>a)</sup>

a) 病害虫防除所 b) 筑波大学生命環境系

香川県農業試験場研究報告 第72号 (2021年3月) 23-30

マツ類葉さび病およびこぶ病菌について、寒天平面培地上で薬剤による担子胞子の発芽阻害試験を行うと、両菌ともにマンゼブ水和剤と有機銅水和剤の効果が非常に高く、チオファネートメチル水和剤でも実際の散布濃度の1~10倍希釈区では効果が認められた。ヘキサコナゾール水和剤は担子胞子の発芽阻害は僅かであったが、実際の散布濃度の1~10倍希釈区では発芽後の発芽管に異常が認められた。

マツ類葉さび病が自然発生する香川県仲多度郡まんのう町(香川県森林センター)、香川県高松市東植田町(公渕森林公園)および長野県南佐久郡南牧村(筑波大学山岳科学センター八ヶ岳演習林)において薬剤の効果試験を行った。その結果、香川県の2か所および長野県の試験におけるクロマツおよびアカマツでのマツ類葉さび病に対する薬剤処理効果を総合的に判断すると、マンゼブ水和剤が最も安定した高い効果を示し、次いでヘキサコナゾール水和剤も高い効果を示した。チオファネートメチル水和剤および有機銅水和剤はある程度の効果が認められた場合と全く認められない場合があり、効果に振れがあった。

キーワード：マツ類，葉さび病，こぶ病，防除，マンゼブ水和剤